

問 29 食育について思うことを自由に記入してください。

子どもの食育・給食・行事食(78 件)

- 学校給食は全て市内の農家が栽培した野菜にする。 (男性 30 代)
- 近年の母親の中には、乳児に与える食べ物知識が不十分である人が散見されるので、周知が重要だと思う。 (男性 30 代)
- 学校給食で、牛乳以外にお茶などが欲しい。公立の幼稚園に給食が欲しい。 (男性 30 代)
- 小学校で指導、教育をしてほしい。 (男性 30 代)
- 子どもには食に関して、しっかり注意していきたい。 (男性 40 代)
- 給食に行事食を取り入れていけば子どもも関心を持ちやすいと思う。またビデオなどを作成して給食の時間に見るようにしたらよいと思う。 (男性 40 代)
- 子どものころからの環境がその人の一生の健康を左右すると思う。 (男性 50 代)
- 幼稚園や小学校の時期から、実践・教育していくとよい。 (男性 50 代)
- 食事の作法、マナーを孫たちに教えていきたい。 (男性 50 代)
- 同居している孫たちのためにも新鮮な野菜をつくって、もう少し成長したら一緒に畑で自身の口に入る物を育て、楽しい食卓にできたらよい。 (男性 60 代)
- 高齢夫婦二人の生活になってしまったので、孫たちと食事をする機会が余りなく寂しい。行事食などを伝える機会が減ってしまっている。 (男性 60 代)
- 子どものころ(小中学生)からの教育が必要。 (男性 60 代)
- 子どもにはなるべくスナック菓子は与えなかった。 (男性 60 代)
- 小学生の食育が一番大切である。小学生の時期に食の好き嫌いをなくすため、小学校生活において野菜を育てて収穫する、農業体験を積極的に推進する。 (男性 70 歳以上)
- 自分だけでなく子や孫にとっても最も大切なこと。習慣として定着させなければならない。 (男性 70 歳以上)
- 遊休農地を利用して幼児や小学生に体験させる場をふやしたらどうか。その場合、全てボランティアに頼るのではなく、種や肥料など必要経費を補助し、経験者の力をうまく活用する施策を考えたら協力者がもっと出てくるのではないかと思う。 (男性 70 歳以上)
- 大人は食育を受けてこなかった。子どもに食育をしっかり取り組ませる。糖尿病などの怖さを知ってもらおう。 (女性 10 代)
- 給食がとてもおいしかった。続けていくべきだと思う。嫌いなものも食べられるようになった。ただし、強制はよくないと思う。 (女性 20 代)
- 子どもがいるので食育の勉強をしている。食べることは体力づくりの基本だと考えているので、子どもにもその意識が身につけてくれたらよい。 (女性 20 代)
- 小学校のころ、学年全員で田植えから稲刈り、その米を使った調理実習まででしたが、今も全員しているのか。すごくよい体験だと思うので、続けてほしい。 (女性 20 代)

問 29 (つづき)

- 親になった若者が基本的なマナーや行事をそもそも理解しているのか。食べることに余り困ることがなくなっている環境で育っている分「食育」をできる人が少ないと思う。 (女性 20代)
- 食育について実践的な行動をするのは大人になってからが主になるが、小中学生の間に習慣づけておくことが大切だと思うので、学校でも教育の一貫として取り組むべきだと思う。 (女性 20代)
- 富士市の学校給食は熱心に食育に取り組んでいて素晴らしい。自校式で味もおいしいし、地産地消や行事食にも積極的で、他市と比べてみてもすばらしく、自慢できる。ぜひもっとPRしてほしい。 (女性 30代)
- 家族の健康は食が支えていると思っているので、普段の食事には気を配っているが、それを子どもたちに伝えきれていないので、今後は子どもへの伝え方を考えていきたい。 (女性 30代)
- 幼いころからの食育に対する地域や学校の取り組みが大切だと思う。子どもを巻き込んだ食育体験教室(芋掘りや農作業体験)をもっと主催してほしい。 (女性 30代)
- 大人になってから農業の手伝いなどをする機会もなくなった。自家栽培に興味はあるが、スペースがない。子どもも自分で野菜など育ててみたほうが食べてくれそうな気がする。 (女性 30代)
- 子どもたちには、世界中には食べ物がなくて亡くなってしまう人たちがいて、その中でおなかいっぱい食べられることへの感謝と、農作物をつくってくれる人がいなければ手に入れることもできないので、つくる人への感謝、お肉やお魚は、その命をいただいているので感謝する気持ちを伝えている。 (女性 30代)
- 休日は子どもと一緒に料理をつくって食べたり、庭のプランターで野菜を育てて食べたりしている。学校でも栄養のことを学んでくるようで、その話を家でしてくれる。 (女性 30代)
- 子どもたちの好き嫌いが多いため、楽しく食べる食事かバランスを考えた食事か迷う。食べられるものだけを並べると楽しいが、苦手な物が並ぶと怒って、食べるように言うことで楽しくない食事になってしまう。 (女性 30代)
- 子どもがいるので、子どもに食べ物の大切さ、食べ物に対する感謝が伝わるよう家でも遊びながら教えているが、食育に関して知識を得る機会がもっとあるとよい。 (女性 30代)
- 小学校の給食の“ふるさと給食の日”のメニューは、とてもよいと思った。 (女性 30代)
- 小中学校の給食の見直し。 (女性 30代)
- 息子が余り野菜を食べないので食べられるようにしたい。 (女性 40代)
- 子どもと一緒に台所に立つことはとても役に立つと思う。幼いからといって恐れずに、ぜひ包丁と一緒に持って、食事をつくることをお勧めしたい。あと、箸の持ち方は泣いてもしつけるようにしている。 (女性 40代)
- 学校給食で食育に力を入れているので、親としてはとても助かっている。家庭でも、日ごろから実践していけるように頑張りたい。 (女性 40代)
- 学校給食はバラエティに富んでいて、嫌いな食材でもおいしく食べられるように工夫されていて感謝している。 (女性 40代)

問 29 (つづき)

- 旬の食材を料理した時は「これは夏野菜だね」、「旬のものはおいしいね」と話しながら食べることを心がけている。子どもや家庭に「旬」を意識してほしい。それも「食育」の一つだと思う。
(女性 40代)
- 子どものころから意識させるよう、大人が教えないとだめだと思う。
(女性 40代)
- 食物を大切に取り扱い、できるだけ毎日料理をつくりたいと思う。家族で楽しくつくったり、笑顔で食べたりできる家庭がよいと思う。普段余りつくらないので、できれば行事食などをつくってみたい。
(女性 40代)
- 子どもがスポーツをしているので、栄養や食べ方など日ごろから気をつけている。今ではコンビニエンスストアなどで手軽に買えるが、やはり子どものことを考えると、できるだけ自分で調理し、栄養を考えた食事を提供したいと思う。
(女性 40代)
- 小中学校の「ふるさと給食」などよいと思う。
(女性 40代)
- 子どもが成長する過程の中で、重要な位置づけになると思う。食事をする上で、「食べる」だけでなく「人と話をする、会話をする」ことによって、よりおいしく感じられるし、そのときの様子を覚えていられる。嗅覚、味覚、聴覚の充実が図られる。
(女性 40代)
- 子育てをしていく上で、食育はとても大切なことだと思っている。母親や両親のひと手間かけた料理を食べている子どもは、非行に走らないのでは、必ず戻ってくるのではと思う。
(女性 40代)
- シンプルに、「食べること」は「楽しいこと」と考えている。また、子どもには同時にマナーや、栄養バランスなどを話すよいきっかけになると考えている。
(女性 40代)
- 保育園、幼稚園などで子どもたちに対しエプロンシアターなどで食育の授業を頑張っていただいている。とてもありがたいことだと思う。
(女性 40代)
- 岩松小学校に子どもが通っているが、給食をつくっている場所がガラス張りになっているので、休み時間や教室移動のときに見ることがあるようだ。家での食事もそうだが、自分たちが食べる物がどのように売られ、どのように調理されているのかを自分の目で確かめられるのはよいことだと思う。苦手な野菜も「〇〇君のおばあちゃんからもらったんだよ」と言うと、きちんと食べて野菜のおいしさを発見できたようで、それ以来、苦手でなくなった。最高の食育だと思った。富士市は野菜などをつくっている人が多いので食育には恵まれた環境だと思う。
(女性 40代)
- 子どもが小さいうちにみんなで夕飯または朝食をとることの楽しさ、3食のうち最低でも2食は親の手づくりの品に触れることが大切だと思う。
(女性 40代)
- 今の子どもたちはお菓子の食べ過ぎ、ジュースの飲み過ぎだと思う。実際自分の子どももそうだが、幼いころから食育については反省すべき点が自分にもあると思う。
(女性 40代)
- 自分もそうだったが、特に子育て中の親には、頑張してほしい。
(女性 50代)
- 食育は子どものころから取り入れることが大切だと思う。家族で楽しく食事をするのが食育への第一歩と考える。
(女性 50代)
- 行事食は大事だと思う。日本の伝統文化を未来に受け継いでほしい。
(女性 50代)
- 小学校の給食にサイダーかんがあり、青い色素を使っていること、炭酸を使っていることがどうしても子どもたちに食べさせているデザートとして納得できなかった。合成の甘さでない、天然の甘さ(寒天と黒蜜とか)を給食に出してほしいと思った。給食に出た物はよいものだと思って、大人になると思うので。
(女性 50代)

問 29 (つづき)

- 食育は、家庭環境に大きく影響されるが、大人の知識がないと教えられないことも多い。保育園、幼稚園、小学校など、幼いころの食生活は、一生体に影響があるので、親と教育機関、両方の連携で、健全な体をつくって成長していけることを望む。(女性 50代)
- 小さいころの習慣が一生続くと思うので、小学校での食育が大切だと思う。(女性 50代)
- 小学校などで、野菜を育てたり、その野菜を使って調理したりして、親子で体験してもよいのでは。(女性 50代)
- 子どもの成長を考えると食育はとても大切だと思う。子どもの食べやすい食事レシピがもっとたくさん欲しい。(女性 50代)
- 食べる物で体がつくられていることを、小さいころから教えることはとても大事だと思う。(女性 50代)
- 私は今現在、アルコールアレルギー体質で発酵調味料、酒類、パン類が入っている食品が食べられない。家族には私の手づくりの料理を食べてもらっている。義母がつくった野菜を使って調理し、釣った魚をいただいて調理してと、命をつなぐ、命をいただいているという感謝の気持ちを強く持つようになった。小学校、中学校、高校などでの体験学習の大切さが学校でも食育につながるのではないか。(女性 50代)
- 小中学校で給食を通じて教育すると効果があると思う。(女性 50代)
- 子ども参加型の料理教室。家庭科、調理実習の充実。親から子ではなく、子から親に伝える、楽しく、身になる授業。栄養士、資格者の学校への派遣。(女性 50代)
- 3人の子育てをしてきて「子育てイコール食育」だと実感している。富士市は学校給食にとっても力を入れていると思う。これからも子どもたちに温かくておいしい給食をお願いしたい。(女性 50代)
- 食事の中には全ての作法が含まれている。あいさつ、感謝、静かに座って、箸使い、音を立てない、周りと一緒に、健康など、子育てと食育はイコールと言ってもよいと思う。自分の体は自分が食べた物でつくられている。日本の食事、基本の御飯、みそ汁、漬物をもっと推進したほうが健康な人がふえる。食育というと子ども対象のイメージだが、大人のほうが勉強したほうがよいと思う。国の負担する医療費削減につながるように。(女性 50代)
- 可能な限り手づくりをし、家族で食卓を囲むことから始まると思う。それが、食事の楽しさ、おいしさにもつながり、その家庭で育った子どもたちはその子どもにも同じようにすると思う。我が家は個盛りではなく大皿に盛り皆でつき合う食べ方をしている。一人娘はそのほうがよいと言うし、社会に出て、皆と食事する際に自分の分量というのも自然とわかっているので、空気の読める食事を楽しめると思う。特に一人っ子なので意識した。(女性 50代)
- 幼児期における食育が、とても大事だと思う。(女性 50代)
- 食育は、家庭で培われるものだと思う。食事の作法は親がしっかり教え、行事食は必ずとり入れるなど。(女性 60代)
- 働く母親がふえた現在、子どもの食事が気になる。富士見台地区では子どもたちに食事を提供する日があると聞いた。すばらしい取り組みだと思う。(女性 60代)
- 家族で食事をする、子どもたちにマナーを教えるからよいと思う。インスタント食品はできるだけ買わないようにしている。(女性 60代)

問 29 (つづき)

- 子どもと高齢者が一緒に夕食を食べる施設があればよいと思う。絵本や昔話でほのぼのと過ごし、よいことを教えられるような時間ができるとよい。(女性 60代)
- みそづくりから始まり、今の季節なら、梅を収穫し梅干しを漬けたり、野菜をつくったりしている。行事食にもとても興味がある。暮らしの年間行事を始め、日本の伝統料理にも大いに興味がある。(女性 60代)
- バランスのとれた食事をとることにより精神、肉体の健全化を図れると思う。発育盛りの子どもたちが家族とともに家庭の味で育ったならば突然キレたりするのを防げるのではないかと思う。食の安定は精神、肉体の安定ではないかと思う。(女性 60代)
- 孫がいるので、ことあるごとに行事食は必ずつくっている。また、作物のでき方など簡単なものであるが家庭菜園で孫と収穫している。女の子の孫には台所の手伝いを通して、バランスのよい食事をつくることなどを教えている。(女性 60代)
- 孫がいるため、なるべく手づくりの物を食べさせるよう、気をつけている。(女性 60代)
- 日本の伝統的な行事を大事にしていきたい。体によいという情報を取り入れ積極的に実践していきたい。(女性 60代)
- 幼少期からの食習慣が、一番大切だと思う。特に若い人への啓発活動を今後もより一層してほしい。(女性 70歳以上)
- 日本の伝統である節句などの行事食を後世に伝え、家族、地域を意識する人が多くなったら暮らしやすい世の中になると思う。(女性 70歳以上)
- 健康な生活をするためには食育はとても大切なことだと思うので、さまざまなイベントを通じて、あるいは幼いときから実践していくことが大切である。できたものを安易に買う親が多いが、できるだけ栄養を考え、自分でつくるようにしてほしいと思う。(女性 70歳以上)
- 現代は四季にかかわらず何でも手に入るが、四季折々の野菜、魚などが身体に与える効果を学校で子どものうちに教える必要がある。学問も大切だが衣食住が一人でできるよう教育していくことが必要と思う。(女性 70歳以上)
- 子どもたちにもっと広めてほしいと思う。(性別不明 60代)

食事・料理・家庭(64件)

-
-
- 一汁三菜。(男性 40代)
 - 食育とは、元々日本仏教伝来のときから言われていることだと思う。宗教と食文化は密接な関係があり、各家庭において宗教観がまちまちであれば統一的な食育と言っても誤差はあると思う。(男性 40代)
 - ジャンクフードの撤廃を進めたい。売らなくてよいと思っている。(男性 40代)
 - よいことだと思う。自分の時代にはそのような言葉もなく、どちらかという男子厨房に入らずという感じだったので、つくっていただいた物を残さないように食べているという現状である。(男性 40代)
 - できる限り外食は減らし、家族との時間を多く取り入れるようにしている。(男性 40代)
 - 食事の時間は家族にとってコミュニケーションをとれる重要な時間である。(男性 50代)

問 29 (つづき)

- 朝食は大切だと思うので、私の子どもたちにも必ず食べるように言っていた。 (男性 50 代)
- 子どもがいるときには大切と思っていたが、今は大人だけの生活なので実践することは減っている。 (男性 50 代)
- つい手軽なコンビニ弁当などを買って食べてしまうので、面倒でも手づくりをするよう心がけたい。 (男性 60 代)
- 三度の食事がおいしければよし。 (男性 60 代)
- 年齢に応じた食事内容を心がけている。 (男性 60 代)
- 食育は家庭でやるべきもの。 (男性 60 代)
- 最近の世代の人 (50 歳代までの人) の食事のマナーが悪く気になる。食堂やレストランなどで、食べ散らかしやたくさん食べ残しが多く見られる。 (男性 70 歳以上)
- 75 歳と年齢を重ねると料理は一切行わず、御飯に缶詰や玉子、納豆などで、包丁を使うことがない。 (男性 70 歳以上)
- 魚を使った食事が少ないと思うのでふやしたい。 (男性 70 歳以上)
- ひとり暮らしだと寂しく、何かを食べようという気も余り起こらないので、例えば、ひとり暮らしの高齢者が集まって食事を食べることでできる機会があってもよいのではないかと思う。 (女性 10 代)
- もっと郷土料理を知ったり味わったりできる場があるとよいと思う。 (女性 20 代)
- 自分が 10 代のころ、とにかくおなかがいっぱい。家出ばかりして悪い友人とつるんでいた。しかし家に帰ると母が自分の食事を用意しておいてあったのを覚えている。空腹だと冷静になれずいららしてしまっただけを覚えている。でも母のご飯を食べると気持ちが落ちついた。非行をなくすには親のご飯を食べること。 (女性 20 代)
- 何を食べるかは大切だとは思いますが、何より楽しく食事ができるようにすることが大切だと思う。 (女性 30 代)
- 家族でその日あったことなどを話せる場として、食事はなるべくみんなそろって食べられるように心がけている。 (女性 30 代)
- 夕食は栄養バランスよく肉、魚、野菜が毎食並ぶよう考えるが、朝食は簡単に済ませてしまうことが多い。 (女性 30 代)
- 食育とは、面倒くさい、難しいという考えしかなかったが、食育の講座に数回参加させていただくようになり、食育＝健康＝笑顔＝幸せと私自身は思うようになり、冷凍食品が多いときには野菜を多くしてみたりと難しく考えないようにしている。 (女性 30 代)
- 夕食は家族がそろえるのだが、朝食は出かける順番に起こすので孤食である。 (女性 40 代)
- コンビニエンスストア、ファストフード店など、今は食生活が変わり始めており、それを好んで食べる子どもたちが大人になり子どもを産むことが心配だ。家庭で笑顔と会話の中で食事をする日をふやしていきたい。 (女性 40 代)
- 健康で幸せな家族はまず食事だと思う。 (女性 40 代)

問 29 (つづき)

- 仕事をしていると早くつくって早く食べて、早く片付けて、になってしまう。旬の物や季節食を大事にしたいと思うが、限界もある。男の人にも積極的に食育に関心を持って、料理などに参加してほしい。(女性 40代)
- 日本人は他国に比べ食に携わる時間が長いというデータがあるそうだ。買物・準備・調理・食事・片づけ、1日のうち何時間だろうか。働く母親もふえた。簡単に時間をかけない食育を考えたい。(女性 40代)
- 毎日必ず野菜山盛り一杯を各家庭で心がけるよう、「電子レンジで簡単」キャンペーンなど実施する。(女性 50代)
- 自分の手づくりを基本に考えている。主食は米中心。(女性 50代)
- ただ食べるだけではなく、楽しくつくって食べることが大事だと思う。(女性 50代)
- できるだけ料理を手づくりしようと思っている。油分、塩分を控えめにしようと考えている。野菜を多く取り入れたい。(女性 50代)
- 忙しい現代人にとって、便利なコンビニエンスストアなどですぐに食べ物が手に入るの、以前のように食事に注意している人が少なくマナーもできておらず、また個食がふえているので気軽に簡単に手に入るコンビニエンスストアも問題かと思う。学生の昼食など手づくり弁当よりコンビニエンスストアの食品のほうが多いと聞いた。(女性 50代)
- 一汁三菜が大事だと思う。野菜を多くし、バランスのよい食事。家族と一緒に食事をするのが大事。(女性 50代)
- 忙しい毎日ではないので、食事はおいしくゆっくり楽しくを心がけている。(女性 60代)
- ひとり暮らしなので仕事で疲れたときは買って済ますこともあるが、なるべく手づくりにして塩分のとり過ぎに気をつけて料理している。(女性 60代)
- なるべく添加物が入っていない食材で手づくりを心がけている。(女性 60代)
- 人数に応じて品数を多く量を少なくつくって食べさせている。(女性 60代)
- 家族が大勢いたときは、いろいろとバラエティに富んでいたが、2人暮らしになると小さくまとまっている。(女性 60代)
- いろいろな食べ物を少しずつ食べるようにしている。(女性 60代)
- 子どもが社会人になると、親と一緒に食事をするのが少なくなる。朝食は夫婦だけになるし、夕食もなかなか皆集まって食べることもなくなる。寂しい。(女性 60代)
- 食事は楽しく食べることを心がけている。(女性 60代)
- 総菜に頼らず、なるべく手づくりで食べたほうがよい。(女性 60代)
- 食に気を使っていた時代に比べ、今は高齢者も家におらず、子どもたちも巣立ち夫婦だけになると、仕事の忙しさと自分たちの年齢もあって夫婦ともども何かしら身体の不調もあり、食事の質・量に変化があり、昔のように食べられず、自然と控える食べ物が多くなる。(女性 60代)
- 子どもに袋菓子を毎日のように食べさせる親たちはどう考えているのか。菓子の代用をもっと考えて、食べさせてほしいと思う。例えば、小さなおにぎりとか、自分でつくり置きした菓子など。(女性 60代)

問 29 (つづき)

- 足が悪いため余り外出はできないが、夫が野菜をつくっていて、娘、嫁がスーパーマーケットへ一緒に車で連れて行ってくれるので産地において旬の物を買ひ、我が家で私がつくり、娘、息子夫婦、孫たちがいつも集まり楽しく食事している。(女性 60代)
- なるべく野菜を使った料理をするように心がけている。(女性 60代)
- 80%手づくりである。畑を借り、野菜も80%家庭菜園で新鮮な物を食べている。(女性 60代)
- 高齢なのでほとんど和食になりがちだが、意識して肉を食べるように心がけている。(女性 70歳以上)
- 高齢でひとり暮らしのため量も少なくつくることが面倒になり、食べる量だけつくるようにしている。冷凍食品も利用している。(女性 70歳以上)
- 少量でもよいので、よくかんで3食必ず食べる。(女性 70歳以上)
- 今の若い母親は、一品料理(ラーメン、スパゲッティ、うどん)で済ませるような食事が多いように思う。(女性 70歳以上)
- 食育は大切に思っており、高齢世帯なので食事には気を配って生活している。(女性 70歳以上)
- 家族4人の食事を毎日つくっているので、肉、魚、野菜などをしっかり食べられるように時間をかけてつくっている。(女性 70歳以上)
- 野菜は手づくりのものを多めに、肉と魚は1日置きにかえ、調味料はだし汁を多めにしてなるべくうす味にしている。(女性 70歳以上)
- 年齢が高くなるにつれ、若いころのように、食べる量が少なくなっているが、その分、野菜の量・種類は多くしている。野菜も温野菜にして、たくさん食べている。バランスのよい食事をと心がけている。(女性 70歳以上)
- 友人と自宅で料理をつくって食し、おしゃべりしたりカラオケにも行ったりする。夕食もほとんど自分でつくって食している。(女性 70歳以上)
- 朝食をとらずに学校へ行く子どもがいると聞く。栄養バランスはもちろんだが、朝食をしっかりすることは子どもたちの成長に大事なことだ。(女性 70歳以上)
- キャベツやレタスなど、よく買うが農薬が気になる。キュウリやトマト、グリーンピース、ピーマンなどは大きなプランターで育てている。食生活には気を使っている。(女性 70歳以上)
- 消費期限について若い人たちと私たち高齢者との見解の違いに悩ませられる。(女性 70歳以上)
- 若夫婦、孫たちとのにぎやかな食事は、楽しく元気の源になっている。私が子どものころの食事のこと、作法や行事などの話をすることが多い。(女性 70歳以上)
- 楽しく食べるのが大事。(性別不明 40代)
- よいと思う食事は参考にしている。(性別不明 70歳以上)
- 娘夫婦や孫たちのため、できる限りの家庭料理を与えている。(性別不明 70歳以上)
- スーパーマーケット、コンビニエンスストアで食事を買う人がふえているが、家庭でつくる大切さを考えてほしい。材料(原料)など、気を使ってほしい。特に子どものいる主婦に言いたい。(性別不明 年代不明)

問 29 (つづき)

健康・バランス(50 件)

- 体の基本をつくるのに大事なことだと思う。 (男性 20 代)
- 食に関する知識をしっかりと理解して栄養バランスのよい食生活ができるようにしたいと思う。 (男性 20 代)
- 富士市の農業の発展と、富士市民の健康を願いたい。 (男性 30 代)
- 食事をしっかりとって、体調管理が大切だと思っている。 (男性 40 代)
- 食育については三度食べる食事の栄養バランスを考えているのは健康上とてもよいことだと思う。食は生きる源と言われるので、食に関する知識を充実させることはより重要だと考える。 (男性 40 代)
- 三度の食事は必ずとり、肉、魚、野菜とバランスよく食べるように心がけ、毎日健康な日々になるようにしている。 (男性 60 代)
- 食と健康の関係をもっとアピールしてほしい。 (男性 60 代)
- 栄養バランスのよい食事をすること。 (男性 60 代)
- ひとり暮らしになり、仕事もしているので、偏った食事になるが、野菜を多めにとっている。 (男性 60 代)
- 血圧が高いため塩分を控え目にして食事に気をつけている。 (男性 70 歳以上)
- ダイエットをするとどうしても抜きがちな食事。余りよくないこととわかっていてもなかなかその知識が抜けない。 (女性 20 代)
- 添加物をとり過ぎない。コンビニエンスストアの食品を利用し過ぎない。 (女性 20 代)
- 子どもがいるので、栄養バランスには気をつけているが、野菜の価格が高いときには、不足しがちになってしまう。 (女性 30 代)
- 食事からは健康な身体だけではなく健全な精神も得られると思う。自分自身、現在食育が行えているとは思えないが、食育はとても大事なことでどの年代の人にも当てはまることだと思うので、どの年代でもどのような人でもしっかりと食事がとれる環境であってほしいと思う。 (女性 30 代)
- 若者のダイエットが心配。特に女子。私の周りでも学生(中学生・高校生)の自分の体型へのコンプレックスのようなものを感じている子がいる。親も「太い」など、親自身もスリムな娘を求めているのかと思うことがある。親の食育に関する知識が必要な気がする。 (女性 30 代)
- 食生活は、健全な心と体をつくるために欠かせないと思う。昔に比べて、さまざまな食品が手に入る時代だからこそ、正しい知識を持って、正しい選択ができるようにすることが大切だと思う。 (女性 40 代)
- 健康のために毎日の食事の栄養バランスは考えている。 (女性 40 代)
- 気をつけていても、子どもや夫が好き嫌いを言って手をつけないので、かえってバランスが悪いような気がして心配になる。 (女性 40 代)
- 若いころは余り気にしていなかったが、40代になり少し体を気にするようになった。食生活について今後改善していかないといけないと感じた。 (女性 40 代)

問 29 (つづき)

- 食に興味がない人に食を選択する力をつけてもらうには行政だけではなかなか大変。コンビニエンスストアやスーパーマーケットに協力してもらい、インスタント食品でなく野菜やお肉を買って自分で調理できる人がふえるとよいと思う。何より食は健康に直結していることを理解してほしい。体は食べた物、飲んだ物でできている。(女性 40代)
- 何げなく買って食べてしまいがちであるが、自分の食べているものが体をつくっているという自覚を持つことが必要。病気の予防にもつながっていくため、根本的に大事なことだと思う。(女性 40代)
- 食は体をつくるということ以外に、精神にも影響するので、食に対する知識は重要だと思う。特に高齢化社会なので、健康で長生きするためにも必要だ。(女性 50代)
- 食は、遠い未来につながるもので人格形成にも関わる大切なもの。コミュニケーションツールとして必要だと考えている。(女性 50代)
- 野菜・果物を中心にして、豆、魚をとるようにしている。乳製品で腹痛を起こすので、気をつけている。(女性 50代)
- 旬の野菜や果物を重視し、バランスのよい食事を心がけたい。(女性 50代)
- 人が成長していく中で大事な土台となることだと思う。(女性 50代)
- 食と健康と生活、切っても切れないこのつながりはとても重要である。(女性 50代)
- 食べ物で体、心をつくるというのは本当だと考えている。また愛情と手間をかけた料理は子どもや家族にも愛情・感謝の気持ちを育み、心の状態もよくなると思う。我が家では化学調味料はほとんど使わず、だしをとる、手づくりするなど心がけている。ただ一定の年数を超えてくると、日本食が全てではなく、各自にあった食事の仕方もせざるをえなくなってくるし、昔と栄養に関する知識も変化しているので、その範囲で食事をしている。(女性 50代)
- 米が大好きなため、食べ過ぎないように心がけている。(女性 60代)
- 健康な生活のため、必要だと思う。(女性 60代)
- 医食同源という言葉を使い日ごろの調理に専念している。食生活がいい加減になると健康面にしっかり影響することも自覚している。少しでも体のことを考え家族に提供するよう努力していきたい。(女性 60代)
- 人間の体は、食べ物によってつくられている。食べ物は、安全で栄養バランスを考えて、とらなければならないと思う。(女性 60代)
- 和食の常備菜などをとり入れながらバランスのとれた食事づくりを心がけたい。また、買い過ぎないようにしていきたい。(女性 60代)
- 朝食より昼食のカロリーが大きくなってよしとし、早めの夕食は品数を減らすなどしてカロリーをとり過ぎないようにしている。最近では肉、魚、玉子、豆類などたんぱく質の量をしっかり食べるように気をつけている。(女性 60代)
- 健康は、栄養バランスが大事である。農業体験や新鮮な野菜を食べることで野菜を好む若者がふえていくのではないかと。(女性 60代)
- 健康で長生きということを考えると大切なことだと思う。(女性 60代)
- 自分の体は、自分の食べた物からできているので、なるべくいろいろな食材を使って、食べ過ぎないように気をつけ楽しく食事をしたいと思っている。(女性 60代)

問 29 (つづき)

- 家族を含め、朝食に一番気を使っている。彩りのある野菜、乳製品、たんぱく質など、栄養バランスのよい食事を摂取。口腔ケアが大切なので歯のクリーニングは3か月に1回、検査は4か月に1回受けている。(女性 60代)
- 過去3年以上にわたり、入院・退院のくりかえしで、食品のことについては全て調理師である息子に料理をしてもらっている。(女性 70歳以上)
- 野菜、肉、魚をバランスよく食べる。(女性 70歳以上)
- バランスのとれた食生活を考えている。(女性 70歳以上)
- 肉類が嫌いで余り食べないが、年をとってきて健康でいられるよう何でも食べるよう努力している。食事の食べ過ぎには特に注意している(腹八分目)。(女性 70歳以上)
- 高齢の夫婦なので、食事は三食、栄養面を考えながらと心がけている。(女性 70歳以上)
- 主食、主菜、副菜を考えて買い物をする。(女性 70歳以上)
- ひとり暮らしとなった今、市や子どもになるべく負担がかからないように食事に気をつけて、少しでも健康寿命を延ばそうと日々、心がけているつもりだ。(女性 70歳以上)
- 健康はまず食生活と自己管理にありと思う。(女性 70歳以上)
- 食事は生きていく上で大切なこと。何をすることも体が資本なので食育は大切なことだと思う。(女性 70歳以上)
- 既製品も便利で助かると思うが、時間のある限り手づくりで体のことなどを考えて努力するとよい。先のことを考えて。(女性 70歳以上)
- 好き嫌いがなく何でもおいしく食べられるが、血圧、血腫(予防)の薬を服用しているので、最近甘い物を控え、特に食に気をつけている。体重も少し減った。(女性 70歳以上)
- 自分の体に必要最低限必要な食材を選んでいる。朝昼晩のメニューが同じで何か月も続いている。体調はよい。よって、どの食材が今の自分の体に必要かを学ぶことが必要かと思う。(性別不明 70歳以上)

普及していない・難しい・情報不足・取り組みたい(46件)

-
-
- 食育の取り組みはとてもすばらしい。しかし、市で『富士山おむすび計画』を策定しているとは知らないし、もっと食育を市民に広めていったほうがよいと思う。(男性 10代)
 - 食について学ぶ機会が少ない。(男性 10代)
 - 食に関する知識を得る機会がなく、なかなか興味を持ちづらい。(男性 20代)
 - 食中毒がふえる一方、一般の人は食の管理などに余り関心がないと考えられる。(男性 20代)
 - 名前は聞いたことはあるが何をするものなのか知らなかった。(男性 20代)
 - このアンケートで初めて「食育」という言葉を知ったが、3交代勤務を行っているので、これから健康意識を大切にしていこうと思う。(男性 20代)
 - 食育とは食を通じた人間形成だと思うが、それを実践する方法が広過ぎて漠然としたイメージしか湧かない。(男性 30代)

問 29 (つづき)

- 食育という言葉は初めて聞いた。これから少しずつ意識して実践していきたい。 (男性 30代)
- 小学校で「食育」を習ってきた子どもに話を聞いてから「食育」という考えを知った。 (男性 30代)
- 余り意識していない。 (男性 40代)
- 食育についてのアピールをしているのか。聞いたことがない。 (男性 40代)
- 料理ができないので、食育など無理。 (男性 50代)
- 食育の効果が認知されていないように思う。 (男性 50代)
- 知識不足の一言に尽きる。 (男性 50代)
- 広く知られていないような気がする。アピールが感じられない。自分は長く食品会社にいたため、多少の気持ちは寄せられるが、一般の人はどうか。 (男性 50代)
- とても必要なことであり、また、楽しみながら取り組んでいきたい。 (男性 50代)
- 今まで言葉の意味もわからなかったが、少しは考えるようにしたい。 (男性 60代)
- 食育という言葉は初めて聞いた。私だけかもしれないが、市民に浸透していないのでは。 (男性 60代)
- 情報不足だと思う。 (男性 60代)
- 食べることは妻に任せているので、何もしていない。 (男性 60代)
- 妻がいろいろ考えてつくってくれるので安心して食べて余り考えもしない。これからは少しでもつくれるようにしたいと思う。 (男性 60代)
- 市民の関心が低いように思える。富士市で生まれたグルメを発掘するなど、関心を高めるイベントによって広めたい。 (男性 70歳以上)
- 食育の問題をどのように解決していくかは、なかなか難しい問題だ。頑張って富士市のよさを食べ物でも伝えたい。 (女性 10代)
- ほとんどの人が“食べる”ということを楽しみに生きていると思うため、食育に興味がある人がほとんどだと思う。もっと介入してもよいのでは。 (女性 20代)
- 余り食育について考えたことがなかったので、これからしっかり考えていきたい。 (女性 20代)
- 食育について意識はしたいが、仕事などが忙しくなると、すぐに忘れてしまう。 (女性 20代)
- 小中学校の授業で聞いたきりで特に意識はしていない。大人への認知度はどうなのか。 (女性 20代)
- 食育の大切さについて理解はしているものの実践ができていない。 (女性 20代)
- “食育”とは具体的にどういうことなのか、定義は一体何なのか、余りよく知らない。 (女性 20代)
- 今現在食育にかかわっているという意識がない。もう少し食育について普及して行ってほしい。 (女性 30代)

問 29 (つづき)

- 食育という言葉が最近よく聞かれるが、実生活で実行することは少し難しいこともある。子ども、家族の健康のためとわかっているが、さまざまな場所で聞くたびに、少し嫌になることもある。
(女性 30代)
- 育ち盛りの子どもたちに、栄養バランスのよい食事をとってはいるものの、忙しさと疲労に負け、買ったものや、朝食は菓子パンなどで済ませている。少しずつ、意識しなければいけないと思う。
(女性 30代)
- よく言われている食育というのが、どうも表面的なものに思える。農業や遺伝子組み換え食品などに関して日本は最低レベルだと思う。命を守るということを本気でやらなければいけない。
(女性 30代)
- 食に関する知識をこれからもっと身につけ、健康的な食生活を送れるようにしたい。子どもにも伝えていきたい。
(女性 30代)
- 食育についてよく耳にするので、なんとなくではあるが、食事のマナーの悪さが外食していて目立つ。食育と同様マナーも広めてもらいたい。
(女性 30代)
- むすびんを含めて、浸透していないと思う。つけナポリタンや鷹岡の富士山ひららもだが、食育も中途半端なイメージ。食育メーンのイベントなどあったのか全くわからない。そもそも「食育」という言葉自体、なじみにくい。
(女性 40代)
- 野菜づくりが好きだ。食べることも好きだ。気まぐれなので、時々「食」について考えるがいま一つである。
(女性 40代)
- ひとり暮らしのため、材料をそろえて料理をつくるとなると、つくり過ぎたり材料を使い切れずに腐らせてしまったりと無駄が出てしまうことが多いので、どうしてもスーパーマーケットの総菜で済ませてしまうことがある。正直なところ、食育について考える余裕は余りない。
(女性 50代)
- 大人向けの食育が目立っていない。
(女性 50代)
- もう子育ては終わったので、食育という言葉は大人には当てはまらないものだと思っていた。
(女性 50代)
- 昔は“食育”という言葉などなかったと思う。当たり前のように家庭で自然と身につけていくものだったのが、時代の流れとともに、家庭で複数人で過ごすことが少なくなってきたせいで、難しくなってきた。
(女性 50代)
- 仕事をしているので、食事づくりに手間をかけられない。
(女性 60代)
- とても大事だと思うが実践できていない。年齢のせいがつくるのが面倒になった。
(女性 60代)
- 食育について関心はあるが、小家族のため発揮する機会がない。
(女性 70歳以上)
- 全てにおいて若いときほど意欲的ではなくなってきた。
(女性 70歳以上)
- 夕食の炭水化物をおから・野菜に置きかえたが、夫は、コーヒーなどを隠れてがぶ飲みしている。よい食べ物もコントロールするのが難しい。
(女性 70歳以上)

問 29 (つづき)

施策・イベント・教育・講座(43 件)

- 農業体験などを通じて、食育を伝え、産業の活性化などができるとよい。 (男性 20 代)
- 学びたい。 (男性 20 代)
- インターネット社会が普及し、便利になっている反面誤った情報が時折見受けられる。それにより、未来ある子どもたちが被害に遭っているのを考えると、正しい知識・学習をする必要があると思われる。 (男性 30 代)
- 農業に携わる人が多い地域柄だと思うので、老若男女問わず、農業体験を行うべきだと感じる。生産者の方々への感謝の念は、スーパーマーケットや飲食店ではなかなか感じられないので、とてもよい機会だと考える。 (男性 30 代)
- 農業としてだけではなく、人の営みの根元にある食を、地域との積極的な関わりにより永続できる仕組みと啓発が必要。 (男性 40 代)
- 食育で子どもに説明できないことが多々あり、知識不足だと思う。もっと日常的に食育という言葉や接する機会など、何かきっかけがあるとよい。 (男性 40 代)
- 厚労省と文科省が連携して考える話だと思う。人は皆大人になるし、食事をとる。適切な食事をしていれば、病院に通うことも少なくなる。そのためには家庭科や体育などの何かの授業で必修にする。試験に出るくらいの重要なものにしないでほしい。数学の公式より必要な知識として。 (男性 40 代)
- 食育に関するイベントをもっと行うべきだと思う (男性 40 代)
- 富士市のB級グルメがあることを知らなかった。なぜつけナポリタンなのか知りたい。 (男性 40 代)
- 食育はとても重要なことなので、今後も推進してほしい。 (男性 40 代)
- 家庭、学校において食育のしやすい環境づくり、先生などに食育を指導できる人の育成、食育などの市民講座。 (男性 50 代)
- 栄養バランスについて学びたい。 (男性 50 代)
- 食育に関する知識が身近に感じられるようにしてほしい。 (男性 50 代)
- 隣の富士宮市は、富士宮やきそばがある。富士市には、つけナポリタンがあるのに、ほとんど知られていないのは、行政が介入していないからか。 (男性 50 代)
- 食育に取り組む機会が必要だと思う。鉄道会社がやっているさわやかウォーキングなど、イベントとして行ったらよいと思う。 (男性 50 代)
- 農業体験のできるイベントを計画してほしい。 (男性 50 代)
- 竹下和男先生の話聞いた。「お弁当の日」を富士市でぜひ推進してほしい。これは、食育の枠以上のことである。人として前向き、積極的に生きることや、ひとり暮らしの大学生や社会人の単身赴任、独居老人になってもひとりでちゃんとした食事をつくり、食べていけることにもつながる、一生のことである。実施するにあたって、大きな予算は要らない。やる気のある校長先生、教師をいかにふやすかにかかっている。やるかやらないか、やることによるデメリットはないと思っている。 (男性 50 代)

問 29 (つづき)

- 孤食ほど料理をまずくするものはない。塾から帰ってから孤食する中学生・高校生や、ひとり暮らしの高齢者にそれぞれ対策を施すことや啓発することなど市役所・保健所・市民で考える機会をふやすことが必要。(男性 60 代)
- 無気力な若者やたくましさに欠ける子どもがふえているが、生きる力の源となる家庭の食育について行政も市民も真剣に取り組むことによって、そうした傾向を軽減できると思う。(男性 60 代)
- 富士市の特産物を市民や市外に P R すべきである。(男性 60 代)
- 地場産品を利用したイベントがあればおもしろいのではないかと思う。(男性 60 代)
- まちづくりセンターで開催される男の料理教室、そば打ち講座へ参加したことがある。なるべく薄味の料理をよくかんで飲み込むよう心がけている。(男性 70 歳以上)
- 食品と健康についての一覧表などを各家庭に配るなどしてはどうか。(男性 70 歳以上)
- 農業体験ができる取り組みや食の大切さを学べる機会を設ける。(男性 70 歳以上)
- 健全な食生活を実践する人を育成するためにも、食料品の好き嫌いをなくすことや生命維持の食品に感謝の念を持って毎日の食事をすることを、標語やスローガンなどで意識づけてはどうか。(男性 70 歳以上)
- 身近な人を育てることから始めないといけない。私は娘を「食は一生」ということを大学で学ばせ、今も病院でその仕事についている。異物など身近なことに興味がないとどうにもならない。(男性 70 歳以上)
- 子どもは給食の時間などを利用して食育を行えるが、大人が食について学ぶ機会が少なく、もっとふやしてほしい。(女性 20 代)
- 大学生になって初めのころは積極的に自炊を行っているが、次第にしなくなる人が多いと思う。学校主催の調理あるいは農業体験をできる機会があるとよいと思う。(女性 20 代)
- 家族で食育にかかわれるイベントなどもっと考えてほしい。(女性 30 代)
- 家庭科があったころは食事を自分でつくっていなかったため興味がなかった。しかも、食育としてだったかどうか覚えていない。今、家族のためにつくる立場になって、教えてほしいと思うことがよくある。(女性 30 代)
- 地元の食材を使った料理を出すイベントをやってほしい。また、市内で生産されている代表的な食材も対外的にアピールしてほしい。(女性 30 代)
- 先日、竹下和男先生の「お弁当の日」の講演を聞いた。学校で積極的に取り組んでいただきたいと思った。講演を聞いた娘は、早速自分の弁当をつくった。たくさんの人たちに聞いてもらいたい講演だった。(女性 30 代)
- 去年の P T A のつどいで講演してくださった竹下先生の「お弁当の日」というのがすごくよいと思った。家でもなるべく子どもに手伝ってもらおうようにしている。(女性 40 代)
- 元来、食育は各家庭でやってきたことで家庭内の食事が大切だと思う。乳幼児定期健診などで離乳食のことばかりでなく、親への食育の時間をもっと確保してほしい。親の教育が必要と思う。(女性 50 代)
- 子どもに向けての取り組みだけを食育と呼ぶのかと思っていたが、今回、一生食育なのだと思った。市民福祉まつりや富士まつりなどで、子ども向けの企画をして、大人をとり込むとよいと思った。(女性 50 代)

問 29 (つづき)

- 子育て中の母親に食の大切さを知ってもらふ機会がふえればよいと思う。 (女性 50代)
- 仕事をしていて夕食など全て手づくりとはいかないので、買う物に対してどんなものが含まれているのかをよく見て買うようにしている。食育の事業はまちづくりセンターやフィランセが発信基地となり地域の子どもたちや高齢者向けの催し物を提供してくれればと思う。 (女性 50代)
- 食育は、まずは、妊娠中の母親教育だと思う。食は一生のものなので、その知識を得ることは大切なことである。食べ物があふれ、また、全てを手づくりというわけにはいかない時代に、何を選択すると将来の健康につながるのかを知ることが大切である。知は力なりである。完璧にいかなくても、とり入れたり、とり除いたり、減らしたりと工夫ができる。また、小学生低学年のころに積極的に学校で話してほしい。 (女性 50代)
- 自ら学ぶもの、自分が自分のために学ぶもの。 (女性 60代)
- 食育について学ぶことが第一で、基礎的なことを忘れていたり、間違っ覚えていたりすることがあるので、体のどこにどんな栄養が必要かなどを表にしたものや、カロリーや塩分の量がどんな料理でどのくらい使われているかなど、広報ふじなどに定期的に載せてほしい。また、クイズ形式などにして関心が持てるようにしてほしい。 (女性 60代)
- 食育や料理のつくり方についての講座など、市民全体に知らせてもらいたい。 (女性 60代)
- テレビや講座などで、食品の安全・健康管理を自ら学ぶのが効果的だと思う。 (女性 70歳以上)
- 富士市と言えこれ、という食べ物が欲しい。あるのかもしれないが認知度が低いと思う。 (性別不明 30代)

地産地消・家庭菜園(42件)

- もっと地元の野菜を多く売るべき。 (男性 20代)
- 野菜などを自分でつくってみれば、残さなくなるのではないかと思う。 (男性 20代)
- もっと地産地消をアピールしたほうがよい。 (男性 30代)
- 富士市の自然栽培、有機栽培農家を大いに応援すべき。若い人はコンビニエンスストア、ファストフード派か自然、オーガニック派に分かれているようだ。長期的に見れば後者のほうが地球に優しく持続性がありそう。 (男性 30代)
- なるべく地元産の食材を使う。 (男性 30代)
- 総合運動公園内に地産地消のレストランの設置。 (男性 60代)
- 毎月、指定日を設け、青空市を数か所で開催し、地産地消活動を行う (市場価格の半値程度)。 (男性 60代)
- 食の安全を考えて野菜をつくって売っている。少し心配していることは、無人販売、農協で売っている野菜に農薬の表示がないこと。いつ薬を使っているのかわからない。専門でつくっている人は農協に全て提出しているのに。 (男性 60代)
- 農協などと連携して遊休農地を市で斡旋し、家庭菜園を普及し豊かな食育を楽しむのはどうか。 (男性 70歳以上)
- 70歳を過ぎ、あり余る時間を生かして趣味として畑を耕して野菜を育てている。不格好なできばえの野菜でも皆さんと分け合い食卓をにぎわし食べる楽しみを味わっている。 (男性 70歳以上)

問 29 (つづき)

- 富士市には地元でとれる食材（魚・野菜・果物など）を一括して安く提供する場所がない。市民誰もが自由に利用できる市場のようなものが欲しい。（男性 70 歳以上）
- 家庭菜園をやりたいが近くにあいている市の菜園がないので欲しい。富士川地区にはあるが遠過ぎる。（男性 70 歳以上）
- 極力地産地消。中国産は避けている。家庭菜園で収穫。（男性 70 歳以上）
- スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで手軽に地元の食材を購入できるようになるとうれしい。（女性 20 代）
- スーパーマーケットなどで地産地消を意識した売り場コーナーがあるので、意識して取り入れているし、今後も充実してほしい。（女性 30 代）
- 地場産の野菜や肉など、気軽に歩いて買いに行ける場所がもっとふえるとよい。（女性 30 代）
- 私の家や近所では畑をやっている家が多いので、野菜を毎日たっぷりとることができる。何十年後も、この自然が保たれていることを願う。（女性 30 代）
- 昔、保育士をしていたころ、食育について少し勉強した。家庭菜園などでみずからつくることは、とても大切だと思った。地元の野菜を多く食べられたらと思う。（女性 30 代）
- 子どもたちは、学校給食のふるさと給食などで、地域の食に触れているが、親はなかなか地域の食を意識することが少ないと思うので、積極的に取り入れていきたいと思う。（女性 40 代）
- コンビニエンスストアなどで便利に食べられる食品もふえているが、富士市には新鮮でおいしい野菜や魚、卵などがたくさんあると思う。産直レシピなどは見かけるが、もっとたくさんの方に見てもらえるような発信方法を工夫するとよいのではないかと思う。（女性 40 代）
- 市所有の土地を安く貸し出して家庭菜園など手軽に体験できるとよいと思う。（女性 40 代）
- 地域でとれた旬の野菜を積極的に取り入れることが、体によいことをアピールしてほしい。簡単な調理方法も教えてもらえるとありがたい。（女性 40 代）
- 地産地消については国産の食品（野菜、肉、魚）を多種多様に購入できる、富士宮の「う宮～な」のような店を市内にもつくってほしい。（女性 40 代）
- 他県から引っ越して2か月だが、富士地域で農産物が買えるスーパーマーケットや販売店が見つけられない。とても残念。伊豆のようなファーマーズマーケットが市役所近くにあれば行きたい。富士宮にしか行ったことがないので。（女性 40 代）
- 農協の朝市を利用して、新鮮な野菜を食べるようにしている。富士市でとれた野菜をもっと多くの所で販売できるようになればよい。（女性 40 代）
- 富士本町で月一に行われる「おかみさん会」などをもっとPRして、その場で地域の特産物を紹介、アピールすればもっと地産地消の意識が高まるのでは。（女性 50 代）
- 家庭菜園や鉢植え栽培などで育てて収穫し食べることのよさを、親子で実感することが大切だと思う。（女性 50 代）
- 日常生活の中で常に手づくりで心こもった食事を心がけている。食は生命の基本だと考え、無農薬野菜をつくり、地方に住んでいる子どもたちにも送っている。（女性 50 代）
- 産直市をよく利用する。市内にある産直市のマップなどがあるとうれしい。（女性 50 代）

問 29 (つづき)

- 野菜は地区の無人販売や農協などをよく利用する。家庭菜園を庭でやっており、収穫もしている。
(女性 50代)
- 家で作った野菜は無駄にせず食べようと思っている。
(女性 60代)
- 小中学校、高校できちんと時間をとり、地産地消のことを教えるべき。地元産品を買いたくても輸入品ばかりだ。地元の野菜コーナーなどをスーパーマーケット全店で推進するようにすべきではないか。
(女性 60代)
- 夫が家庭菜園でいろいろな野菜をつくってくれる。新鮮な物を食べたときのおいしさは特別なものがある。少しでも自分でつくってみる体験が大切だと思う。
(女性 60代)
- 地産地消はとてもよいことだと思う。郊外に行くととれたて野菜などを販売しているようだが、私の住んでいる所では、それがないので残念。
(女性 60代)
- 月に数回農協の産直市を利用している。野菜が豊富で新鮮で、おいしくいただいている。多くの人たちが地元のものを利用し、もっと関心を持つようにアピールしていったらよいと思う。
(女性 60代)
- 食べることは生きていく限り続く。農家が少なくなっているので、できる限り地産産品を買いたい。
(女性 70歳以上)
- 日ごろから土に親しみを持ち、食物へのありがたさを感じられたらよい。
(女性 70歳以上)
- 地産地消を勧める。
(女性 70歳以上)
- 家庭菜園で作った野菜は余り味つけをしなくてもおいしいし、野菜の味がわかる。薄味になり食事が楽しくなる。
(女性 70歳以上)
- 私の家には畑が少々あるので、自分の家でできる物はつくってそれを食べている。3～5種類。
(女性 70歳以上)
- 地産地消をもっと重視すべき。
(性別不明 50代)
- 農家の庭先・移動販売を充実し、みずからの目や舌で食材を手にする機会を望む。
(性別不明 70歳以上)

食材・生産地・残った食材(37件)

- ちゃんと野菜をとることにしている。
(男性 20代)
- 生産者の顔がわかるものを食に取り入れていきたいと思っている。健康とコミュニケーションがとれる食文化にしてほしい。
(男性 30代)
- とりあえず産地については気をつけている。基本中国産は買わないなど。
(男性 40代)
- 地産地消の前に、食物を粗末にしないで残さず食べることを考えていかなければならないと思う。
(男性 50代)
- 原産国、生産地の表示を必ず確認するようにしている。
(男性 60代)
- 日本茶を急須で入れ毎朝仏様にお供えしてみずからも飲む。日本茶を中心とした「和食」を主に魚、野菜を多く摂取しようと心がけている。若い人たちにもお勧めしている。
(男性 60代)

問 29 (つづき)

- 中国産は食べないようにしている。 (男性 60代)
- 食材をできるだけ多く使うようにしている。(特に野菜など) (男性 70歳以上)
- 日本の食文化保全に関連し、旬の食材をいただく。体力・健康保持のため、口から食物を摂取するよう心がける。家庭菜園に興味あり。 (男性 70歳以上)
- 自然食に気をつけて食べるようにしている。 (男性 70歳以上)
- 大変失礼な話だが、中国製品の安全性に不安がある。スーパーマーケットなどでの取り扱いに制限、もしくは「中国製」と明確に表示してほしい。一国を表示すると問題となるので、生産国(製造国ではない)を大きく明示。現行製造国表示になっている。 (男性 70歳以上)
- 年齢とともに食べたいものが変わる。量から質への移行。信頼できる生産者、表示の正確性。 (男性 70歳以上)
- 国産品を食べる。中国産食品は購入しない。 (男性 70歳以上)
- 一般家庭においてもそうだが、店での残り物はできる限り減らしていったほうがよいと思う。 (女性 30代)
- まずは買った物をだめにしてしまわないように、「買った物は全て食す」を目標としている。 (女性 30代)
- 地場産の食材をもっと安価に購入できて、季節感を大切にしたら料理をつくっていければよいと思う。 (女性 30代)
- スーパーマーケットで生産地を選びたいが、スーパーマーケットが偏って進出しているので今後選べなくなるだろう。あるスーパーマーケットばかりになると自然とそのプライベートブランド商品ばかりになり原産国はお隣の国の物ばかりになってしまう。 (女性 40代)
- 季節のものは季節ごとに食べるなど。テレビ、ニュースなどで情報を得て、危ない物は避けている。 (女性 50代)
- なるべく旬の物を食べるようにしている。コンビニエンスストアは本当にいろいろそろっている。不自由はしていないが、孫がだしの味をおいしいと言うのを聞いて、若い母親にもインスタントに頼らないでつくってほしいと思った。 (女性 60代)
- 健康な生活を送るためには食生活が一番大事だと思う。食品を安心して買えるスーパーマーケットの見極めも大事だと思う。産地(国産)添加物など気をつけている。 (女性 60代)
- 子どものころ祖母に「ご飯こぼしたら目が潰れるよ」と言われ育った年齢層なので、ご飯粒一粒も残さず食べる。また食料生産者の苦労を思い、感謝の気持ちを持って食べている。 (女性 60代)
- 新鮮な食材をおいしく料理し、喜んで食べてもらえるような食生活を目指したい。 (女性 60代)
- 自分の目で、新しい物を選ぶようにしている。 (女性 60代)
- なるべく旬の物を使う食材を取り入れるようにしている。 (女性 60代)
- 食べた物はそのまま体になると信じ食材には気をつけている。 (女性 60代)
- 人に食べられるためだけに生産され、育てられ、処分されている生き物がいることを忘れないようにしている。また、お米1粒も、人の手をへて大切にされて自分の手元に届いていることを認識している。感謝。 (女性 60代)

問 29 (つづき)

- 食の偽装を防ぎ、産地のわかる物を食べたい。安い物を買いたいと思うが、安かろう悪かろうは怖い。(女性 60代)
- 季節の物をたくさん食べるようにしている。買い物はよく農民市場に行く。根物など食べられる所は廃棄せず利用する。手づくり料理をするようにしている。(女性 60代)
- 野菜を多く食べるよう心がけている。(女性 70歳以上)
- 安全のため、地場産や国産など選んでいる。(女性 70歳以上)
- 毎日食べている物だから残さず食べることができるよう材料の使い方を考えて料理している。(女性 70歳以上)
- 海草をもう少し多くとったほうがよいと思う。ワカメ、コンブ、ヒジキ、アラメ、アオサ、モズクなど。(女性 70歳以上)
- 安全な物が一番大切だと思う。値段が少々高くても国内産、県内産を使い、海の物、山の物、畑の物などを取り入れている。アメリカ産など外国産の肉は絶対食べない。中国産野菜など国内へ入れないようにしてほしい。次世代にとって心配で仕方がない。(女性 70歳以上)
- 米を毎日主食として食べるのは、大切だと思う。米をつくる人のことを考えて。(性別不明 40代)
- 食事に対しては母に任せっきりだが、母が中国産の物は買わないようにしている。わずかなことだが。(性別不明 40代)
- 自分でつくって、とにかく新鮮な野菜をとるよう心がけている。肉でも魚でも、古い物は食べない。(性別不明 60代)
- 中国産は絶対買わない、食べない。(性別不明 年齢不明)

食の安全(25件)

- 日ごろより、添加物をとらないように成分表示をよく見る。コチニール、マーガリン、ショートニングなどを気にしている。市でも安心安全な食べ物を推進してもらいたい。(男性 10代)
- 子どもが生まれてから、食の安全についてよく考えるようになった。知識があるのとないのでは全く違うので積極的に学びたい。(男性 30代)
- 放射能についての真実がわからないので、セシウムだけでなく、ストロンチウムなどの影響も知りたい。(男性 30代)
- 無農薬だから安全だと思わせるような浅はかな食育が多い。(男性 30代)
- 添加物がない食品を食べる。(男性 50代)
- 学校給食の充実を図る。安心安全な食料を地産で行えるよう、無農薬を充実させる。(男性 50代)
- 体に悪い物を置かない、出さない。(男性 50代)
- 冷蔵庫を過信しない。食中毒に気をつける。(男性 60代)
- 安全、安心を意識するように努める。(男性 60代)

問 29 (つづき)

- 安全とバランスに心がける。 (男性 60代)
- 海外からの輸入品が多いので「食の安全」が保たれるのか心配。 (男性 70歳以上)
- 加工食品の添加物が心配。 (男性 70歳以上)
- 食品の賞味期限を考えたい。 (男性 70歳以上)
- 地産地消も大事だが、地域の生産においてもなるべく農薬や添加物を使わないことが、食の安全において大事だと思う。 (女性 30代)
- 子どもがいるので安心・安全な食材を取り入れ、また、家族で食卓を囲むのを意識していきたいと思う。 (女性 30代)
- 『まごわやさしい』やトランス脂肪酸を減らす食事など、もっとたくさんの人たちに知ってほしい。朝食の食パンとマーガリンをやめて、体調がよくなった人がある。 (女性 40代)
- 食品の安全については、消費者からわかりにくい。具体的な商品名を出してほしい。 (女性 50代)
- 安全第一。 (女性 50代)
- 安全なものを提供してほしい。 (女性 50代)
- なるべく無農薬のものを買いたいと思っているが実践できていない。 (女性 50代)
- 食品添加物、表示は必ず確認する。 (女性 60代)
- なるべく国産で無農薬のものをつくってもらいたい。 (女性 60代)
- できるだけ農薬を使わない物を選ぶ、姿形は気にせず。 (女性 60代)
- 安全な食品の選択がなかなか難しい。できるだけ製造者の表記のあるものを買って求めるようにしている。 (女性 70歳以上)
- 食中毒、食物アレルギーに注意する。 (性別不明 70歳以上)

経済面・環境(20件)

-
-
- 子どもと家庭菜園をしている。さまざまな補助金が出ると助かる。 (男性 30代)
 - 仕事などで遅くなると夕飯を食べなかったり、コンビニエンスストアなどで適当に済ませたりすることが多い人があると思う。仕事環境の改善か、または料理をすることのメリットをアピールすることが必要だと考える。 (男性 30代)
 - その時々にかかるコストがかからない食物を購入している。経済的に問題がなければ地産地消もできると思う。 (男性 40代)
 - 物価が高くて毎月赤字である。 (男性 40代)
 - 食育には意識はあるが経済性が優先してしまう。 (男性 50代)
 - 安全性、栄養価、産地を気にしながら買い物をするとコストが上がってくるのでバランスをとるのが難しい。 (男性 50代)

問 29 (つづき)

- 家庭ごとの収入の問題があるから、食育に関心があっても安い食材（輸入品）を買ったり総菜や弁当などで済ませたりしているのが現実だと思うので、食育をするには豊かな家庭環境が必要だと思う。
(男性 50代)
- 安全安心な物を取りたいが、金額的に高いものが多い。
(男性 60代)
- バランスのよい食事を取りたいが、食費がかかる。
(女性 30代)
- 重要なことだと思う。富士市で生産された食品のアピールをしてほしいし、それを安価で購入できたら、なおよい。
(女性 30代)
- 経済的にどうしても食費を削ってしまうので、国が勧める野菜などは毎日摂取することが難しい。お米も静岡県米を選ぶと金額が高いため、特売で安くなったときに買うようにしている。
(女性 40代)
- 地産地消、食品の安全性・・・気になることは多々あっても毎日の食事のことなので、結局は金額次第。中国産より日本産のほうが安全だろうと思っても、日本産の値段が余り高いと買えないのが現状である。
(女性 40代)
- 食育は関心がないと、なかなか取り組めないと思う。また、ある程度お金もかかることなので金銭的にも心にも余裕がないとできない。忙しい人やその日暮らすことが精一杯の人たちには無理がある。
(女性 40代)
- 食育を進めたくても進められない事情がある家庭やその背景をどのくらい把握しているのか。知り合いに子ども食堂に携わる人がいた。独居老人も多い。子育て支援や乳幼児の育成指導、アドバイスをやっても、他県では1歳未満の子に蜂蜜を与えてしまった例がある。
(女性 40代)
- 食事は大切だと思いつつ、共働きがふえているため、時間がなくて栄養バランスのよい食事を思うように与えられない家庭もふえている。野菜は調理に手間もかかるし、国産の野菜はここ数年価格が高どまりしている。農協も開店すぐに行かないと品物が少ない。
(女性 50代)
- 体をつくっていくことなのである程度気をつけるが、予算に上限があるため、品質に気をつけつつも安い物を買ってしまう。
(女性 50代)
- 健全な食生活をするためには、お金と知識が必要である。特にお金は不可欠である。お金がなければ安全で豊かな食生活は送れないのではないかと。「おむすび計画」もよいが市民に浸透していないし、理解している人が少ないと思う。「おむすび計画」を推進する前にもっとすることがあるのではないかと。
(女性 60代)
- 食費がかからないので、つくることが好きである。
(女性 60代)
- 安全な食をと思うが、高値で手が出ないこのごろである。この先が不安に思う。農協の直売所も、思ったより高値なので、もう少し安くないか。年金生活で、このごろは厳しい。
(女性 70歳以上)
- 地場産品は高く、年金生活では毎回買うのは無理。
(性別不明 60代)

問 29 (つづき)

情報共有が必要(10 件)

-
- 食は人間生活での基本。充実した食生活の情報がもっと欲しい。 (男性 60 代)
 - 自分の体は自分で守れるよう、本や新聞、インターネットなどで情報を取得して健康管理をしている。 (男性 60 代)
 - テレビを見て参考にすることもある。人の話も参考にする。 (男性 年代不明)
 - 子どもが生まれ、栄養バランスについては、とても気を使うようになった。食育で実践しやすいレシピなど気軽に知ることができるとありがたい。 (女性 20 代)
 - 広報ふじで、旬の食材や行事食のレシピなど掲載してもらえると地域の情報として知りやすい。 (女性 20 代)
 - 富士市、静岡の野菜や魚、水を使った食材はおいしくて積極的に購入する。我が家には子どもはいないが、子どもを中心にした食育イベントや市の活動があったらもっと参加しやすいし、発信されたらうれしい。 (女性 30 代)
 - 食育という言葉が、子育て世代にのみ適用されるイメージが強いので、生活習慣病の予防など高齢者や病中病後の人にも取り入れられるよう、病院などで試食会など開けば、もっと取りつきやすく広まりやすいのではないかと。 (女性 40 代)
 - 食育には大いに関心がある。市でも積極的に食に関することを市民に教えてほしい。 (女性 50 代)
 - 民間の講演会などで得た知識を人に話すようにしている。 (女性 50 代)
 - 健康について話題になることが多い中、食育には関心がある。食育に関する情報をチェックして無駄にしないよう、心がけている。 (女性 50 代)

その他(5 件)

-
- 大学4年のときに体調を崩し、約2か月間、食べても戻ってしまう状態が続いたことがある。普通の食事ができることはとても幸せ。「食事をする」という当たり前のことができる幸せを知ってほしい。 (男性 20 代)
 - 食に関しては自主性に任せればよいと思う。 (男性 30 代)
 - むすびんがかわいくない。 (女性 20 代)
 - 市民の健康を考えて、栄養バランスなどについて言われることには納得するが、作法や行事食についてまで言われたくない。 (女性 30 代)
 - 食の安全について幅が広いので何を言いたいかわからない。見た目で見るとか判断、日本独自の食生活を実践、料理に取り組んでいるかの質問の「しばしば」についてわかりやすくしてほしい。 (女性 70 歳以上)